

## 人権教育講演会

11月16日(水)に、PTA人権部主催の人権教育講演会を実施しました。  
 この講演会には、4~6年生の児童も一緒に参加して、講師の西原さつきさんのお話を聞きました。



命の尊さを考えながら全校生で制作した『命の一本桜』を講演会の会場に掲示しました。



人権教育講演会の講演のテーマは、『自分らしく生きていくこと (Just be yourself with your story)』です。  
 西原さつきさんは、幼少期より男性として生を受けたことに違和感を覚え、16歳から女性ホルモンの投与を始められました。大学卒業後、女性社員として広告代理店で勤務されました。26歳の時、性別適合手術を受けられました。2016年、性別や年齢を問わず女性らしさを育む学びの場「乙女塾」を創設されました。2018年からは、ドラマや映画でトランスジェンダー指導や脚本監修に携わっておられます。

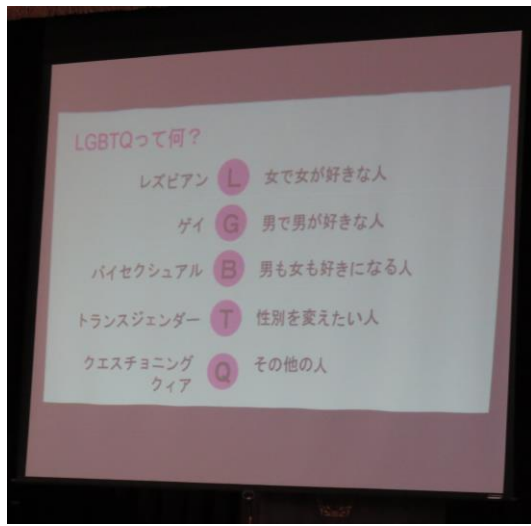
今日は、自分らしく生きていくことについてお話をします。最後に、「Just be yourself with your story」について一緒に考えましょう。

西原さんは、男の子と女の子に分けられていることが気になり、小学校の頃から悩んでいたそうです。中学校になり、制服を着るようになって気持ちが暗くなったそうです。ある時、テレビの『金八先生』で、主演の上戸彩さんが女性で生まれて心が男性の役を演じているのを見て、自分も心が女性かもしれないと感じたそうです。

みなさん、LGBTQって知っていますか？  
 LGBTQは、全体の約何パーセントぐらいいると思いますか？

答えは、約10人に1人です。LGBTQは、AB型の血液型の人や左利きの人、佐藤さん・鈴木さん・高橋さん・田中さんの名字の数等、それぞれの割合と同じくらいだそうです。





自分の体と心の性別がずれていて苦しかったです。  
自分の体が自分のものじゃないもののように、物心をついたころから感じていました。  
一度は与えられた性別で頑張って生きよう、男らしく生きようと思いました。



性のあり方は、4つに分けて考えることができます。

性別適合手術を受けると戸籍を変えられます。性のことをオープンにしないのが一般的ですが、西原さんは、同じ思いで悩んでいる人たちに勇気をもってもらいたいと思い、自分のことを話しているそうです。

小さい時に、お母さんに、「あなた女の子になりたいわけじゃないよね。」と声をかけられ、西原さんは「違うよ。」と答えたそうです。  
お母さんは「あー、よかった。」と言われたそうです。その時、西原さんは、自分の気持ちを言うてはいけないのだなと感じたそうです。その時に相談ができていたら、違っていたかなとも思われたそうです。



西原さんが一番辛かったのは、人に言えないさびしさを感じていたことだったそうです。また、人々が何気なく発した「普通は・・・」という言い方がとてもつらかったそうです。もし友だちが、カミングアウトして、自分に秘密を打ち明けてくれたら、それは、信じてもらえているのだなと思ってください。そして、「教えてくれてありがとう。」と言ってくると、友だちは救われます。

**Just be yourself with your story**  
 ≪西原さんからのメッセージ≫  
 あなたの物語をあなたらしく生きてください。人生は、自分らしさを見つけていく長い長い旅だと思っています。  
 自分らしく生きること。お互いを理解し合い、思いやりをもって生活することが大事です。  
 西原さんの人生だからこそ、気が付いたこと、それは、「人と比べなくなったこと」「コンプレックス（弱点・欠点）は個性になること」「自分にしかできないことをするようになったこと」だそうです。

**保護者の皆様と共に、子どもたちは、熱心に西原さんのお話を聴くことができました。**